

飛躍

TOKAI UNIVERSITY TAKANAWADAI JUNIOR & SENIOR HIGH SCHOOL

HIYAKU

第316号



東海大学付属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2012年12月1日

●発行者/東海大学付属高輪台高等学校・中等部 校長・黒坂進生

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え

Cultivate your thoughts in your early days

若き日に汝の体躯を養え

Nurture your body in your early days

若き日に汝の智能を磨け

Develop your intellect in your early days

若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

TOP*NEWS

吹奏楽部

第60回全日本吹奏楽コンクール金賞受賞

中等部 合唱祭開催



3年連続出場 全日本吹奏楽コンクールで金賞



合唱祭



SSH成果報告会 (3年課題研究 ポスター発表)

第4回 中等部合唱祭開催

10月31日、中等部合唱祭が開催されました。各クラス、この日のために心を1つに練習を重ねてきました。それぞれがさまざまな思いを胸に金賞を目指して頑張ってきました。その結果、見事金賞を受賞した2年A組、そして指揮者賞、伴奏者賞を受賞した生徒にコメントを書いてもらいました。受賞できなかったクラスもクラスが団結したこの経験を生かし、今後さらに素晴らしいクラスにしていってほしいと思います。

合唱祭を振り返って

小沼 聡

2年A組 川崎市立宮崎小学校出身

今回の合唱祭を振り返ってみると、一番大きかったのは、クラス全員が団結しとても良い結果を残せたことです。

最初の方は、放課後練習をサボる人も結構いました。そして、朝練が始まり、朝と放課後の練習が強制になった時は、自分も不満でした。しかし、練習を重ねていくうちに、自分たちは合唱練習をどんどん真剣にやるようになっていきました。B組という強力なライバルがいたお陰もあります。そのことで、みんなもやる気になったので、どんな厳しい練習も頑張れました。

本番はかなり緊張しました。先生の助言やステージマナーをちゃんとできるか不安でしたが、胸を張ってやろうと決めたので、堂々と歌えました。

そして、最終的には金賞という結果が残せたので、本当によかったです。

指揮者賞受賞

鈴木 美咲

3年A組 川崎市立東住吉小学校出身

最後の合唱祭となりました。もう、今後私たちは、今のメンバーで歌うことは一生ないと思います。その中で私はどう皆をまとめられるのか、指揮を見やすくするためにはどうしたらいいかを、例年よりも考えました。今年の合唱祭では、指揮をほとんど先生から教わりませんでした。1、2年の時に積み上げてきた成果を、発揮できた年だと思っています。でも、その中で銀賞、指揮者賞が取れたのはやはりメンバーのお陰であって、私一人の力ではないので、支えてくれた皆にも感謝したいです。

伴奏者賞受賞

桑原 千晶

2年A組 川口市立朝日西小学校出身

私は、このような賞を取ることができたのは、ほかでもなくクラスみんなや、先生方のお陰だと思っています。

初めは、先生から厳しい指導を受け、心が折れそうになることもありましたが、みんなが一生懸命に練習する姿を見て、私も頑張らなければ、と勇気づけられました。

金賞・伴奏者賞を取ることができ、本当にうれしかったです。周りの人にとっても感謝しています。

受賞おめでとう!!

金 賞: 2年A組

銀 賞: 3年A組

銅 賞: 2年B組

指揮者賞: 3年A組 鈴木美咲

伴奏者賞: 2年A組 桑原千晶



2012年度学校運営方針

11月13日(火)・14日(水)に2012年度の2回目の一斉公開授業が行われました。たくさんの保護者の方々にお越しいただき、忌憚のないご意見をうかがうことができました。また、22日(木)には、生徒による第3回の授業評価アンケートを実施し、後期中間試験までの授業評価を行いました。すべての教員が、個々の改善すべき点をチェックし、学校全体の教育力の向上を目指します。

全教科の教員の資質向上

東海大学には、各付属高等学校・中等部に所属する英語・数学・理科の教員に対して、1年間の様々な研修を行う「土曜研修」制度があります。現場に必要な知識、専門性を高める高度な知識など教員としての力をさらに高めるべく内容で実施しています。

また、毎年、年に4回の全教職員に対する「校内教員研修」を行っています。今までには「救急救命AED講習会(高輪消防署)」、「生徒を犯罪から守るために(高輪警察)」、「子宮頸ガンと予防ワクチン(健康総合相談室)」、「教育現場における知的財産権に関するルール(東海大学ロースクール)」など、様々な内容で行って来ています。教職員は、直面している問題に対して、正確な情報を共有し合い、問題解決のために取り組みたいと考えています。

教科・学年・分掌間での連携強化

本校では、すべての授業を公開しており、誰もが自由に参観することができます。中等部のTT(チーム・ティーチング)各教科が実施する「研究授業」生徒発見型学習など、教科の中だけでなく、他教科の教員や外部の方々の視点でアドバイスをいただき、授業の在り方について検討をしています。また、生活面では担任や学年団のみならず委員会活動や部活動など、学校全体で節度ある行動や時間の大切さ、集団行動の重要性を指導しています。本校は、本当に開かれた学校を目指し、厳しい意見を真摯に受け止めながら、努力を続けています。

後援会から1,505,174円の収益金を寄贈していただきました!

後援会の皆様のご協力に感謝いたします。生徒に還元させていただきます。

10月6日(土)・7日(日)の2日間、建学祭が行われました。両日ともまずまずの天候に恵まれ、5,004名の方々が来校されました。後援会の方々による「バザー」や「けやき屋食堂」の収益金1,505,174円を学校に寄贈していただきました。毎年のごことではありますが、今年も多くの方々にご協力をお願いし、バザー用品を拠出していただきました。この場をお借りして、厚く御礼を申しあげます。また、後援会の委員の皆様方には、建学祭の準備や当日の運営まで多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございました。この収益金はありがたく頂戴し、生徒たちに還元できるものをご購入させていただきたいと考えております。なお、収益金の一部を「私学ボランティア基金」へ寄付いたします。



中等部1学年だより

秋も深まる10月31日(水)、中等部合唱祭が行われました。どのクラスも順風満帆に練習が進んだわけではな
いようでしたが、困難を乗り越え、この日のために練習を重ねてきました。本番ではA組、B組両クラスともにそれ
ぞれの思いを歌に乗せて歌うことができました。また1年生は初めての合唱祭で、何もわからないところから始め
ましたが、先輩たちが本気で取り組む姿勢を見て、行事へ参加することの意義をまた1つ学んだようです。今回は
合唱祭を経験した生徒のコメントを紹介します。

みんなでやりとげた合唱祭

渡辺 愛海

1年A組 北区立王子第五小学校出身

私のクラスは、「マイバラード」を歌いました。この曲はクラス全員で決めました。初め、合唱祭は授業中に練習した成
果を発表するだけの行事かと思っていましたが、先輩の話を知ったり、放課後練習の話を知ったりして、そんなに単純
なものではないんだと思いました。先輩たちは3週間くらい前から放課後練習をしていました。私のクラスは本番の2週
間前から放課後練習を始めました。でも、先生がいなくなるとすぐにうさくなってしまったり、まじめに歌ってくれない
人がいたりして、なかなかクラスが1つにまとまらず、先生が怒る場面もありました。

歌もうまく歌えず、私も途中であきらめかけました。でも、先輩たちの歌を聞いて、頑張つて金賞をとりたいと思いま
した。1週間前からはクラスのみなが真剣に取り組んでくれるようになり、伴奏も何回も指揮と合わせ、協力しながら本
気で練習できました。

そして本番、1-Aは一番最初でした。初めての合唱祭だったので、すごく緊張しました。

本番は今までで一番声が出ていてすごくよかったです。賞は残念ながら取れませんでした。全力を尽くせてうれ
しかったです。来年は賞をとれるように頑張りたいです。

みんなで作りあげた合唱祭

及部 楓華

1年B組 大西学園小学校出身

10月31日の合唱祭は、私たち1年生にとって初めての合唱祭でしたが、2、3年生の先輩たちに負けまいと頑張りました。
思えば、私たち1年B組は最初はまとまりがなく、やる気のない人がとても多かったのですが、日がたつにつれて緊張感が
増していき、「金賞」を目指して毎日練習に励むようになりました。本番ではその練習の成果を発揮し、1つになって歌うこ
とができました。

しかし、2、3年生の先輩たちの合唱は私たちの合唱とは比べものにならないくらい素晴らしくて、感動と衝撃を感じました。

結果は残念ながら賞をとることができず、すごく悔しい思いでいっぱいでした。1年B組として合唱祭に出るのはこれで最
後ですが、クラス替えをしても悔しい気持ちをバネにして、来年の合唱祭も頑張りたいです。



A組 指揮者 渡辺 嵩輔



B組 最後は一致団結できました



A組 自分たちのベストを尽くしました



B組 指揮者 名久井 早紀

中等部2学年だより

建学祭

10月1日(月)に後期始業式があり、文字通り、中等部生活3年間の折り返し地点を迎えました。
生徒たちは本校在学中に6回の建学祭を経験します。その2回目が10月6日(土)、7日(日)の2日間行われ、
無事に終了しました。昨年度より、一回り大きく成長した生徒たちの手作りの建学祭を報告します。

離しかった接客

飯塚 真央

2年A組 大田区立蒲田小学校出身

去年、私は部活動の大会に参加したために建学祭を経験していませんでした。どのように接客したらよいかのかわ
りませんでした。最初のうちは、問題の説明をして、合っているか否かを言うだけでしたが、徐々に、このように言ったら
笑顔になってくれるとか、会話が弾むなどがわかるようになりました。そのうち慣れてきて、人が並んだら会話をしたりし
て、お客さんをなるべく待たせないように、退屈させないように等々の気配りをするようになり、とても良い経験ができた
ました。最初は作り笑顔だったけれど、自然と笑顔になりました。いろいろと見学するのも楽しかったけれど、私は、お客
さんが来てくれて、話したり、笑顔が見られるほうが楽しかったし、何よりもうれしかったです。

来年は中等部生活最後の建学祭になります。中学生の頃にしか味わえないことなどたくさんあると思うので、全力
で取り組みたいです。去年よりも今年、今年よりも来年といった形で、より上質な展示ができればいいなと思います。



自分たちで楽しもう!



お客さんが来る前に



入念な準備



川崎先生も応援に



接客中



清水先生が見学に

私が学んだこと

榎本 菜々

2年B組 淑徳小学校出身

今回の建学祭は、私にとっては2回目でした。前回の建学祭は、まだ1年生だったこともあり、先生たちにすごく協
力してもらいましたが、今回は、自分たちでできるだけ準備をしました——先生たちに頼ったところも多かったけれど、

初めは、何をすればよいか皆目見当がつかなくて、まったく進まなかったけれど、今、自分がここで頑張らなければ、
誰も楽しんでもくれないと思ったので、何回も何回もやり直して、完成させました。

準備期間中は、イライラする人が多くて、自分もイライラしてしまい、友達にひどいことを言ってしまう場面がありました。
あとで考えてみると、些細なことだったのかもしれませんが、意見をぶつけ合うことはすごく大切なことだと思いました。

お客さんから「ありがとう」と言われたときは、言葉では言い表せないくらい、うれしかったです。

中等部3学年だより

最後の合唱祭

今年の合唱祭は、生徒たちにとって最後の合唱祭でした。本番を迎えるにあたり、生徒たちはクラスで一致団結し、ステージ上で輝かしく歌っていました。しかし、本番を迎えるまでは決して平たんな道のりではなく、昨年よりも大幅に準備が遅れ、順調なスタートとは言えませんでした。それでも生徒たちは互いに衝突しながらも成長し、素晴らしい歌声を我々の耳に残してくれました。この合唱祭での経験が今後の人生で貴重な財産となることでしょう。

歌の力

都地 果穂

3年A組 千葉市立海浜打瀬小学校出身

合唱祭の準備期間、朝は7時50分に集合し、放課後も毎日練習しました。私は最初から金賞を目指していました。おそらく人生で最後になるであろう合唱祭を、良い思い出にしたかったからです。ですから、話し合いの末に朝練をすることになった時はうれしかったです。しかし、皆が私と同じ意見ではありませんでした。一部の人は朝練に来るのを嫌がっていました。私は、そういう人は朝練に来ないで、練習したい人だけ来ればよいと思っていました。しかし、私の考えは間違っていました。合唱というのは集団で作るものです。みんなで一つにならないと良いものを作れません。多少強引でも、朝にクラス全員が集まることで、全員が金賞を取りたいと思えるようになったのではないかと思います。本番で歌った時はとても気持ちが良かったです。金賞以上に価値のあるチームワークを得られたと思いました。

合唱祭

久保 俊介

3年B組 足立区立西伊興小学校出身

私は今回の合唱祭を終えて、3年B組の団結力の強さを知ることができました。最初「モルダウ」を歌うということが決まった時、本当にこの歌を歌えるのかという思いを抱きました。なぜなら、この「モルダウ」はとても難しい曲であったからです。でも、逆に難しい曲にチャレンジするということが、とても私たちのやる気を起こさせてくれました。初めて歌った時、1人ひとりの声が多々合っていないで、バランスも悪く、気持ちを重くさせるようなものでした。

しかし、少しずつ練習を重ねていく中で、1人ひとりの意識が芽生え、クラス全体のバランスが良くなっていきました。そして本番当日の朝、みんなで最後の練習をした時、とてもきれいな声で歌うことができました。本番になって、壇上に上がると、とても緊張してしまいました。結果は、賞は取れずに終わってしまいましたが、私は最高の合唱祭だと思いました。



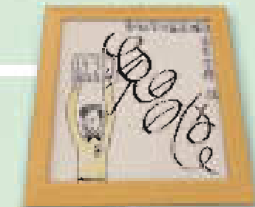
指揮者賞おめでとう!!



みんなで力を合わせて歌いました

高校1学年だより

学年集会②



建学祭・体育祭も終わった10月25日(木)。1時限のホームルーム活動はアリーナで2回目の学年集会でした。今回のシンポジウムは、2008年2月にフジテレビで放送されていたドラマ「ロス・タイム・ライフ」を鑑賞した後、原案・脚本・チーフ監督の寛昌也(かけひまさや)氏をお招きし、作品制作の裏話や映像ディレクターのお仕事などについて伺いました。進路選択について考え始めるこの時期、生徒たちは監督のお話真剣な表情で耳を傾けていました。

「ロス・タイム・ライフ」第1話「カメラマン編」 あらすじ

「現場で死ねたら本望」を公言する若手の報道カメラマン・中山春彦(瑛太)は、マンション火災から逃げ遅れた子どもを隣のビルから撮影し、緊張感あふれる写真を夕刊紙のデスク・篠田(小市慢太郎)に提供する。自身2度目の「報道写真大賞」を狙う中山は、翌日も危険を冒して麻薬取引の現場に忍び込むが、怪しい風貌の男たちに見つかってしまい、拳銃で撃たれてしまう。死を覚悟した中山だったが、なかなか弾が当たらないことを不審に思っているのを開けてみると、弾丸は空中で静止しており、どこからともなく現れたサッカーの審判団が中山に「ロス・タイム」の開始を知らせる。電光掲示板の表示は「4:17」。中山は人生の最後に与えられたこの4時間17分で、いったいどんなプレイを見せるのか?



寛昌也氏



シンポジウムの様子



会場からの質問

印象に残ったシーン・セリフ

妊婦さんを助けたシーン(残り3:17)
火災の中にいる子どもを平気で見捨てた主人公が、人のためになる行動をしたから。(2組・男子)

「やることなくなっちゃったよー」(残り0:35)
もうすぐ人生が終わるのにやることがないはずはない。でも、何をしたいかわからないという気持ちは理解できる。(8組・女子)

— 少しずつ減っていく時間表示 —
時間が経つのを早く感じることも遅く感じることもあるけれど、進む時間は同じなんだなあと思った。(9組・男子)

もしロス・タイムが与えられたら?

生きている間は絶対にできないような、人の役に立つことをする。例えば、全財産をユニセフに寄付するとか、大量に献血するとか。(5組・女子)

あえて何もしない。何かしたら死ぬのが苦しくなると思うから。(7組・男子)

あなたにとって人生とは?

「人生は人とのつながりであり、人とのつながりこそ、人生」(4組・女子)

全体の感想

実際にロス・タイムがあるかはその時が来なければわからないが、こういう世界があるとしたら今を大切にしないといけないな、と強く感じた。
物事にはすべて意味があると思うので、自分ではロス・タイムと思った時間も無駄にはなっていないのかもしれない。(6組・男子)

映像ディレクターという、普段あまり知ることのできない職業の話聞いて、改めて人に何かを届ける仕事っていいなって思ったし、将来そういうことを仕事にしたいという思いも強くなりました!(1組・女子)

私は今回のシンポジウムを聞いて、まるで少年たちが各々の夢を語り合うような新鮮さを感じた。たまには「ないこと」を語るのもよいかもかもしれない、そう思った。(3組・男子)

人生にロス・タイムがあったとしたら、人は後悔を取り戻そうと努力する。後悔をするからこそ人間なのであり、それが人生なのだと感じた。

1日1日を何でもない日常として過ごすのではなく、出会った人に素直な気持ちで感謝を伝えられる自分でありたいと思う。だからこそ、実習での生徒や先生方との出会いに感謝し、感謝される人間になりたいと強く感じた。(教育実習生・女子)

高校2学年だより

シャッフル HR

11月12日(月)、2学年ではHR活動の時間で、各クラスの担任の先生が入り替わり授業を行うという試みを行いました。名付けて「シャッフルHR」。普段授業で行っていないクラスに行き、それぞれの先生方が趣向を凝らした授業を行いました。目的は、生徒がより多くの先生と関わりを持つこと。いろいろな先生方からいろいろな話を聞いて、さらなる飛躍を目指す。生徒たちは楽しみながらも授業に取り組んでいました。それでは、クラスの代表生徒のコメントをどうぞ。

1組 橋 健治先生(5組担任)

絵本 **志村 夏織**
足立区立第九中学校出身
橋先生は絵本を2冊読んでくれました。5匹の怪獣が大切な物に気付くお話で、英語でしたが、すべて解説しながら和訳してくれました。もう1冊は、ネズミのネロが主人公で、光る石をめぐるハッピーエンドとバッドエンドの2つのお話が入った、欲についての本を読んでくれました。先生が変わり、新鮮な気持ちで授業を受けられました。

2組 鈴木 康重先生(9組担任)

10年後の私 **瀬下 慎太郎**
茅ヶ崎市立浜須賀中学校出身
10年後の自分はどうなっていますか？ そう聞かれて、簡単に答えられる人はいないでしょう。僕もそうでした。ただ、実際に考えてみるとたくさんのビジョンが頭に浮かびました。この授業では、将来思い描く自分になるために今の瞬間をどう生きるか？ 自分の進む道を再確認できる1時間でした。

3組 数馬 大介先生(7組担任)

O・ヘンリーの『賢者の贈り物』について **金子 真彦**
川口市立戸塚西中学校出身
O・ヘンリーの『賢者の贈り物』を読み、クラスの皆で贈り物の意味について話し合った時、自分の中で改めて贈り物に込められた気持ちの大切さについて考えさせられました。私たちは部活動の顧問の先生しか知らなかったのが、今回初めて数壇に立つ先生を見て、新たな一面を見られたことも良かったです。

4組 妻沼 省吾先生(2組担任)

応援されるスポーツマン **三ヶ尻 京平**
春日部市立大沼中学校出身
応援されるスポーツマンはスポーツができるだけでなく、勉強も私生活もしっかりしている人です。そのために予測と準備と判断が必要で、考えて生活を送ることを習慣化することが大切です。このことは部活動に入っていない人も同じことなので、この授業を通して2年4組のみんなが応援される人になればいいなと思いました。

5組 橋本 智孝先生(6組担任)

想像力を働かせて **加藤 拓海**
横浜市立日吉台西中学校出身
5組には6組の橋本先生が来られて情報の授業を始めました。趣味を書けと言われて僕はスポーツについて書きました。すると先生は、話しかけたことがない僕にバスケット部だろうと話しかけてきました。小さな情報から正確に当たっていたのでとても驚きました。担任が変わるのはとても新鮮で楽しかったです。

6組 大澤 泉先生(2年学年主任)

自分の夢くらい自分で守れ!! **田村 凜太郎**
川口市立仲町中学校出身
今回のLHRは夢を叶えられなかった人が、夢を叶えられた人に文句や悪口を言うことについてどう思うか、1人ひとりが考える授業でした。私はそういう人は惨めで残念だと思いますが、世の中にはたくさんそういう人がいるというの、否めない事実であると思いました。

7組 田中 善隆先生(8組担任)

3人で1つの物語を書く **藤野 莉佳**
東海大学付属高輪台高等学校中部出身
「3人寄れば文殊の知恵」といいますが、そうはいかないこともあるのだと思知らされる1時間でした。3人寄れば大混乱とはまさにこのことです。設定はどうする、オチはどうするなどなど、あげればキリがありません。なんとオチへつなげて一安心しても、今度は題名に悩まされました。混乱につく混乱の1時間でしたが、とても楽しい時間でもありました。次回への期待が高まります。

8組 加藤 新也先生(3組担任)

心理テスト **石川 雄太**
玉川中学校出身
HRではいつもと違う先生に来ていただき、簡単な心理テストをしました。「三角」から連想する言葉をあげてくださいという質問に対して、「π」は家庭環境、「チョコパイ」は私の将来を表していました。自分の将来が「チョコパイ」というのが、この先の人生をどう表しているかが気になります。

9組 横田 功先生(1組担任)

私は誰でしょう **小此木 一優**
瀬田中学校出身
私たちのクラスは1・2年で担任が変わらなかったため、新鮮な気持ちで取り組むことができました。今回の授業では、クラスメート1人ひとりの部活動や趣味などを先生が発表し、それが誰なのかを当てるゲームを行いました。私は全員わかって思っていたのですが、とても難しかったです。友人の新たな一面を発見することができる良い機会となりました。

高校3学年だより

スポーツ大会

高校生活最後のスポーツ大会、そして高校生活最後の行事となった今回のスポーツ大会。全員が全力で競技に参加し、頑張っているクラスメートを必死に応援することができ、素晴らしいスポーツ大会になったのではないかと思います。そこで今回は各クラスの代表者にスポーツ大会を終えての感想を書いてもらいました。

1組 スポーツ大会2連覇!! 安富 桃香

今回のスポーツ大会は3年間で最後の行事で、どのクラスも燃えていました。1組は練習をしないまま当日を迎え、不安でしたが、総合優勝できました。グラウンドとの2連覇も果たして最高の思い出となり、皆の絆もより深まりました。

6組 スポーツ大会 本多 奏樹

競技に応援に一致団結したスポーツ大会は、まさに高校生活最後の行事にふさわしい最高の思い出になりました。卒業まで残り少なくなってしまいましたが、6組の絆を一層深め今回に負けたくないくらい充実した日々にしたと思います。

2組 情熱こそ最高の才能 平出 勘太

熱くなったプレーの1つも、下手なりにクラスに貢献したいという熱い気持ちの表れです。このような情熱を持つことは最高の才能であり、熱くて美しい生徒が多いこの学年が好きです。

7組 悔しさをバネに 大口 翼人

7組は優勝という2文字しか目指していませんでした。バレーボールとバスケットボールの朝練や、ドッジボールで立てた作戦や綱引きの動画を見ての準備など準備万端でした。結局3クラスが同点で1位になりました。とても悔しかったですが、良いmemoryになりました。

3組 最後のスポーツ大会を終えて 横山 拓矢

今回のスポーツ大会は、このクラスみんなで取り組むことのできる最後の大きな行事だったので、いつも以上に団結することができました。この良い雰囲気のまま、残り少ない高校生活を楽しく過ごしたいです。

8組 初めての優勝 本間 沙彩

最後のスポーツ大会、8組は優勝しました！特に、私の心に残ったのは、女子バスケットボールです。決勝でプザービートを決めた時は本当にうれしかったです。このクラスで最後まで盛り上がりつこう。

4組 最高の思い出! 沢澤 麻里沙

最後のスポーツ大会だったので、男女ともに一致団結して戦いました。結果は残念でしたが、応援もとても盛り上がり、さらにクラスが仲良くなりました。最後のクラス行事は最高の思い出です。

9組 一致団結 宮吉 麗理

9組は惜しくも優勝できませんでしたが、最後まで諦めずに試合に挑む姿はどのクラスよりもかっこよかったです。何よりもクラス一丸となって一生懸命応援したことは最高の思い出です。最後の行事、笑顔で終わりました!

5組 スポ大 田島 健太

高校3年間の最後の行事ということもあり、バスケットボール、バレーボールともに1カ月以上前から練習をしていましたが、優勝することができませんでした。しかし、クラス全員で同じ目標に向かえたことに意味があったと思います。

10組 試合の間に 瀬戸 龍太郎

私たちのクラスは、選手・応援共に全力で試合に取り組みました。さらに、試合の合間にはみんなで集まりさまざまな遊びをして盛り上がりました。スポーツ大会も終わり、卒業まであと少しなので、1日1日学校生活を楽しみたいですね。



吹奏楽部 第60回全日本吹奏楽コンクール金賞受賞

心をひとつに

吹奏楽部 部長 山内 野依
3年9組 横浜市立茅ヶ崎中学校出身

私たち吹奏楽部は、11月1日に名古屋国際会議場で行われた全日本吹奏楽コンクールに出場しました。コンクールには制限時間があります。1団体が演奏できる時間は最大でも12分間です。この12分間のために私たちは1月から練習を重ねてきました。練習では、思うように成果が上がらなかったり、意見の違いでぶつかりあうこともありました。時には逃げ出したくなることもありましたが、吹奏楽部の仲間やクラスの友達の支え、先生方や家族の多大なサポートのおかげで乗り越えることができ、また全力で練習に打ち込むことができました。そして、全国大会では「金賞」という名誉ある賞を受賞することができました。金賞を受賞するまでに悩み考えたこと、経験したことは、私たちにとって大きな財産となりました。これからは、この結果に満足することなくさらに上を目指していきたいと思っていますので、これからも私たち吹奏楽部をよろしくお願いたします。応援、本当にありがとうございました。



松前重義記念基金 建学記念作文・小論文

2012年度「松前重義記念基金」建学記念小論文・作文の応募者の中から、本校では高校3年の小杉健也君の小論文と中等部3年の松村拓君の作文がそれぞれ優秀作品に選ばれました。11月2日の建学記念式典で黒坂校長より建学記念奨学金の証書と奨学金として図書券が授与されました。



CARPE DIEM

小杉 健也

3年2組 東海大学付属高輪台高等学校中等部出身

受賞をしたということは、他人に認められたということです。それだけでうれしいことです。もちろん、小論文コンテストであるので受賞しなかった人もいます。しかし、最初から受賞できないと思って応募する人はいません。応募した人たちはみなこう思っているはず。「人生は短く、つかの間であるから、今ある機会を逃してはならない」と、「明日がある」と考えるより、「明日はない」と思って生きる方が、何に対しても全力で取り組むことができます。

賞をいただいて

松村 拓

3年B組 清泉小学校出身

今回の「建学記念作文」で賞をいただくことができ本当にうれしく思っています。作文のテーマである「幸福とは何か」はもちろん、簡単に結論の出るものではありませんが、「幸福」について考える良いきっかけとなりました。この賞をいただくことができたのは、家族や周りの方々にさまざまな経験をさせていただいたお陰だと思っています。「みんなに」感謝する気持ちを忘れずにいたいと思います。

2013年度東海大学付属推薦入学合格者決定 403名の生徒が希望の専門分野に進学します

今年、東海大学への推薦入学試験を受験した生徒は403名であり、希望者全員が合格しました。これは、現3年生の約90%にあたります。進路指導部・高校3学年の先生方が一体となり、きめ細やかな指導を行った結果、下記のように多くの生徒が無事に希望した分野への進学が決定しました。

「ミライをつくろう Keep on Moving」

東海大学は、「若者が夢を探し、自らの未来を創造する場である」と学長の高野二郎先生が提唱しています。これは、若者にとって夢を抱き、それに向かって何かを成し遂げ自分の世界ではばたき、幸せな未来を作り出してほしいという思いを東海大生に託したことばです。東海大学は、全国に8キャンパスがあり、18学部77学科・専攻・課程をもつ全国規模の総合大学です。この多様なフィールドには有望な若者が集い、夢を形に変えていくエネルギーがあります。

さて、今年度から航空宇宙学科航空操縦学専攻(9月上旬決定)を除くすべての学科が6月末までに推薦候補者として決定されました。これによって、推薦候補者となった生徒たちは、夏期休暇前にそれぞれのキャンパスで保護者同伴による説明会と個別面談を受けることができ、「個別指導課題Ⅰ」も与えられました。そして、10月には大学の先生方による丁寧なレポートの添削指導や、高校への巡回指導などがあり、大学への学びの第一歩が始まっております。

今後は、それぞれの進学先の学科から「個別指導課題Ⅱ」が与えられるとともに、インターネットを利用したe-Learning学習が指示されます。これらは、知的好奇心を高めるとともに、大学入学までにどれだけ基礎学力を充実させておけばよいかの確認になります。さらに12月には、学科別にクラスを編成し直した特別講座も開始します。入学前学習や特別講座に全力で取り組み、残り少ない高校生活を充実したものとしてください。



●推薦状況

大学・短期大学	学部	人数
東海大学	文学部	49
	観光学部	10
	政治経済学部	39
	法学部	8
	教養学部	39
	国際文化学部	5
	理学部	20
	情報理工学部	11
	情報通信学部	27
	工学部	109
	海洋学部	14
	農学部	3
	体育学部	24
医学部	3	
健康科学部	13	
小計		374
東海大学短期大学部		2
東海大学医療技術短期大学		8
ハワイ東海インターナショナルカレッジ		19
小計		28
総合計		403

2013年度 東海大学サイエンス・マイスター育成プログラムに2名が選出されました!

東海大学では、理数分野に高い関心を持って入学した学生に対して、科学者・技術者としての企画力・分析力・点検力・改善力に加えて、英語によるプレゼンテーションなどの表現力を育成し、グローバルな社会の多様な場で活躍する「サイエンス・マイスター」の育成を目指しています。

このプログラムに選出されると、学部の枠を超えた副専攻制度として、湘南校舎17号館に設置されている「高度分析装置」を利用して、測定原理と分析技術を学び、科学技術への興味関心を伸ばします。さらにインターンシップや科学英語、プレゼンテーション能力の育成を図り、大学院進学へとつなげるプログラムです。

今年度は、付属推薦枠の20名のうち、高輪台高等学校から3年10組の小川雄樹君と鶴田裕也君の2名が選ばれました。今後、大学に入学してからの活躍を期待します。



左から小川君、鶴田君

SSH 成果報告会を開催

2012年度SSH成果報告会を10月27日(土)に本校で開催しました。今年も全国のSSH指定校をはじめ、東海大学および学園の高等学校から多くの先生方が出席されました。午前は、本校のSSH活動について説明後、SSHクラスの授業として1年：「企業連携活動報告会」、2年：「単位円に内接する正多角形の頂点間の平方和の総和」、3年：「科学倫理」が公開されました。午後からは、3年生の「課題研究ポスター発表会」が実施され、活発な質疑応答が行われました。また、SSH活動の成果普及に向けて2つの教員交流会(①企業連携によるキャリア教育、②成果普及～地域の小中学生を対象とした科学講座～)が開かれ、他校の先生方と意見交換がなされました。最後に、今回の成果報告会につきまして研究協議と講評がなされ、無事終了することができました。

公開授業

1年：「企業連携活動報告会」

生徒が自ら企業へ訪問し、今学んでいることが製品や技術などにどのように生かされているのかというテーマをもとに、10社との連携を行いました。そこで学んだことなどをまとめてポスターを作成し、そのポスターを2つの教室に分かれて発表を行いました。

発表を通しての成長

中村 奎斗

1年9組 板橋区立加賀中学校出身

今回私たちは、興味を持った技術や製品を開発している企業に訪問し、訪問先で聞いてきた内容を踏まえて、ポスター発表をするという「企業連携」というものを行いました。私たちの班は、富士通株式会社の全周囲立体モニターシステムという技術について発表し、その技術の利点や応用方法、課題点などを発表することができました。みんな約半年ほどしかプレゼンテーションの勉強をしていないのに、自然とジェスチャーやアイコンタクトが取れるようになっていたなど、今回の発表を通じて改めて思いました。今後もサイエンスアゴラなどで発表する機会が増えていく中で、プレゼンテーション能力を磨いていきたいと思えます。



2年：「単位円に内接する正多角形の頂点間の平方和の総和」

単位円に内接する正多角形のうち、正三角形、正方形から頂点間の平方和の総和に関する性質を類推し、性質が他の正多角形でも成り立っていることを確かめていく授業を行いました。普段の生徒が行っている受ける授業ではなく、考えたことを発表し伝える授業を行いました。

正多角形の規則性の発見

五十嵐 侃大

2年9組 杉並区立和田中学校出身

事前授業をまず行い、正三角形、正四角形など単純な正多角形で考えていきました。ここでは、頂点間の長さも本数も容易に解くことができました。しかし今回の授業では、正八角形など辺の数を増やしていくと、それぞれの頂点どうしを結んだ辺の長さを求めることは難題でした。そこで、先生の言うように長さを文字で置くことで、僕にはちょっと違った景色が見えてきました。文字に置き替えることで、全てが定かでもなく解けることがわかりました。数学に限らず問題の解き方は何通りもありますが、今回のように見方を少し変え、文字を有効に使い、美しく解くことが今回の授業での成果でした。



3年：「科学倫理」

「発表編」の締めくくりとして、今年度は「代理母出産」を発表テーマに選んだグループの生徒4人がパネリストとなって、「日本で代理母出産を認めるべきかどうか」というテーマでパネルディスカッションを行いました。最終的に認めてもよいという意見が多数を占めました。最後に、東海大学医療技術短期大学学長の灰田宗孝先生から講評と解説をいただきました。ちなみに、灰田先生は条件が整えば認めてもよいというご意見でした。

考えさせられたテーマ

清田 彩愛

3年10組 中野区立中央中学校出身

「代理母出産」というテーマで、パネルディスカッションを行いました。当日は、多くの先生や保護者の方が来てくださりとても緊張しました。初めに、私たちの班が「代理母出産」について発表しました。現在、代理母出産は日本では認められていません。しかし、海外では認められている国がいくつかあります。日本で認められていない理由は、まだ代理母出産に関する法律が定められていないことと、多くの倫理的問題があるからです。その後、ディスカッションを各班で行った後、その結果を発表しました。みんなから活発な意見が出ました。私は、まだ日本での解決には程遠い問題だと感じました。しかし、重要な難しい問題なので、今後もニュースなどに耳を傾けていきたいと思えます。



TOKAI キャンパスメッセージ

東海大学海洋学部環境社会学科

環境問題や地域の課題を科学と社会の視点から考える

海洋学部環境社会学科 主任教授 北 勝利

海洋学部環境社会学科は、海や沿岸域における環境問題や地域課題に取り組むことを主眼に、2011年度に1期生を迎え「出航」した新しい学科です。環境問題や地域課題の解決には、状況や原因を分析し対策技術を考案・開発するなどの科学的な取り組みとともに、地域の文化や社会の仕組みを踏まえた現実的な解決策の取りまとめと実践が必要となります。環境社会学科では、理学、工学、景観学、社会学、経済学など多彩な専門分野の教員が集まり、文系・理系にとらわれない

柔軟な思考と幅広い視野、得られた知識やスキルを応用し、環境社会問題に積極的に取り組む実行力を併せ持つ人材の育成を目指しています。海洋学部の共通科目である海洋実習では、大学所有の海洋調査研修船「望星丸」を利用して駿河湾や太平洋近海において水質調査などを行います。海洋に関する知識や調査技術の修得はもとより、船上生活を通じた同級生や教員との交流は、通常授業では得難い経験となることでしょう。また昨年度のプロジェク入門授業では、海洋学部の

地元である静岡市三保地区の観光資源を現地聞き込みなどを通して調査し、エコツアー企画として取りまとめ、地元観光業者の前で発表するなど、企画力・発信力を養うための実践的な授業やフォローアップも実施しています。さらに学科有志学生による企画・広報・運営のもと、役所や企業、NPOの方々を講師としてお招きし、静岡の環境について考える地域公開型セミナーを開催しています。学生はさまざまな機会を通じて、積極的に自身の知識やスキルの向上に努めています。



地元観光業者の皆さんへのエコツアー企画の発表



海洋実習でのプランクトン観測

海洋学部環境社会学科に入学して

海洋学部環境社会学科2年(高輪台高校2011年3月卒業) 万里崎 百仁

私は2011年に海洋学部の環境社会学科に1期生として入学しました。環境問題は地球全体の問題ですが、保全活動は各地域によって行われます。今は主に海の環境問題とそこでの保全活動について詳しく勉強しています。

海洋学部には大学所有の海洋調査研修船「望星丸」があります。これに乗船して気象海象、採水、採泥、プランクトン採取、水質などの海洋観測や船上活動などが経験できる「海洋実習」という授業があり、これは他の大学では学ぶことのできない独自のカリキュラムです。そして海洋学部には、海洋学部ならではのカヌー、カヤック、サーフィン、ウインドサーフィン、ダイビングなどのサークルがあります。私は大学1年生の夏休みに小型船舶免許を取得しました。講習も試験も大学内で受けることができるばかりでなく、受

講料も特別料金で経済的にも助かりました。さらに、学科、実技講習とも非常に丁寧に指導していただいたお陰で試験も余裕をもって受けることができました。

私は今、学科での勉強に加えて海洋フロンティア教育センターという海洋学部独自のプログラムで、国際ビジネスや経済・経営について学んでいます。これにより学科の専攻に加えて、広く社会で

役立つ実践的なビジネス能力といった付加価値を身につけることが可能で、就職活動で有利になると考えたからです。海洋学部には独自のものがたくさんあり、ここでなければできないことがたくさんあります。私は海洋学部環境社会学科に入学して多くのことを学ぶことができていたので、本当によかったなと感じています。



海洋実習の食事当番をする万里崎君



海辺にて友人と

お知らせ

高校3年生特別講座開始

自ら学び、探求する姿勢を大切に!!

期間

12月7日(金)～1月31日(木)

目的

大学の授業に備え、高校時代に身につけておかなければならない知識などを、これまでの授業とは別の角度から学ぶ。

大学では、1人ひとりの学ぼうとする姿勢が高校以上に大切です。学習に対するしっかりとした姿勢を身につけましょう。

行事予定

December 12月

January 1月

- 1日(土) 中等部受験生・保護者学校見学会(4回目)
- 3日(月) 卒業試験(高3～4日) 後期中間試験(高1・2～4日)
スポーツ大会(高2:アリーナ)
- 4日(火) 中等部校外活動(中1:落語・中2:東芝科学館・中3:文楽)
- 5日(水) 生徒自宅学習日(高3) 振替休日(高2)
- 6日(木) 答案返却日(高3)
- 7日(金) 特別講座開始(高3～1/31)
- 8日(土) 保護者会(中3) スポーツ大会(2年:アリーナ)
- 9日(日) 高校受験生・保護者学校見学会(4回目)
- 10日(月) 朝礼[正制服着用] 45分短縮授業
- 12日(水) 中等部保護者面談開始(～12/24)
- 18日(火) 校医相談日
- 21日(金) 冬期休暇前講話注意:大掃除(7時現)
- 23日(日) 天皇誕生日
- 24日(月) 振替休日
- 25日(火) 冬期講習(～28日)

- 6日(日) 新春懇親会
- 7日(月) 生徒休業日
- 8日(火) 朝礼[正制服着用] 45分短縮授業
- 10日(木) 2年生学年集会(中等部・高校)
- 12日(土) 東海大学進学相談会(高2)
- 13日(日) 中等部受験生・保護者学校見学会(5回目)
- 14日(月) 成人の日
- 17日(木) 月曜日の授業
- 18日(金) 高校入試推薦願書受付
- 19日(土) 高校1年スポーツ大会(アリーナ)
- 21日(月) 中等部入試願書受付、第1回(～1/31)・第2回(～2/2)
- 22日(火) 高校推薦入試 生徒自宅学習日
- 23日(水) 高校推薦入試合否発表
- 24日(木) 生徒による授業評価アンケート、学年集会(高3)
- 25日(金) 漢字検定(希望者)、高校一般入試願書受付(～1/31)
- 26日(土) 中1・2英語検定(中3:高校希望者)
- 29日(火) 校医相談日②
- 31日(木) 高校3年特別講座終了

教育実習生



編集後記

1人あたりの国民所得が世界一のリヒテンシュタイン公国は人口3万6千人足らず、スイスとオーストリアに挟まれた山手線の内側ほどの小国である。「優れた美術品を収集すること」を家訓とする侯爵家が500年以上にわたって集めた3万点におよぶ世界有数のコレクションの一部が現在日本で公開されている。いかに優れた芸術作品といえども、秘蔵されたまま人びとの目に触れることがなければ、それはちょうど地中深く眠ったままのダイヤモンドと同じである。この機会にご覧になってはいかがでしょうか。(か)